



Chapter

2

Document

第2章
記 録



募集から審査までの記録



募集規定

- 募集期間**
2021年12月24日(金)～2022年5月16日(月)
- テーマ:「リアル」のゆくえ**
世界中で猛威を振るう新型コロナウイルスの感染症は、私たちの社会と日常生活を一変させました。急速に進化するデジタル技術は私たちの生活の奥深くにまで入り込み、オンライン空間の中で人と会い、話し、仕事を続け、あるいは芸術や娯楽に親しむことも日常となり、これまで自明とされてきた私たちの「現実」はその意味を大きく変えようとしています。
そのような人類史の転換期とも言える今、私たちにとって「リアル」とは一体何を意味しているのか、それはこれからどこへ向かうのか、地球環境とメディア環境、真実と虚構、あるいは私たち自身の生と死など様々な「現実」を前に芸術という人類の営みを改めて問い直してみたいと思います。
3回目となる「Art Award IN THE CUBE 2023」では、丈六(*1)サイズのキューブ内に表現された、あなたにとっての【「リアル」とそのゆくえ】に出会えることを期待しています。
- 応募資格**
Art Award IN THE CUBE 2023の趣旨を理解し、入選された場合には作品の完成まで責任を持って取り組める方(個人、グループ、年齢、国籍を問いません)
- 作品規定等**
作品は、未発表のものに限ります。1名・1グループにつき1作品までとします。
- 作品寸法等**
4.8m(幅)×4.8m(奥行)×3.6m(高さ)のキューブ空間で展示できること
- 審査料**
1点につき5,000円(税込)
- 賞・賞金**
大賞 賞金 500万円 / 1点
審査員賞 賞金 100万円
入選 賞金 50万円 / 14作品程度(作品制作時に支給)

*1:丈六
ブツダの身長が1 丈6 尺であったといわれることから丈六仏が作られるようになりました。本展では第1 回のテーマ「身体のゆくえ」に触発され、キューブの寸法を丈六と決めました。

公募説明会

審査員とAAIC2017、AAIC2020の入選作家をゲストに全国6か所でのトークイベント／公募説明会の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、名古屋、東京、福岡、京都はオンライン開催、金沢、岐阜がリアル開催となった。2021年12月からの公募開始をPRし、機運を盛り上げた。また、作品制作への想いやAAICの取り組み等について、入選作家からの生の声が聞ける貴重な機会となった。

公募説明オンライントーク ※各会場で実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とし、オンライン開催となった。収録後、後日、公式サイトにて公開。

2022年1月22日(土) AAIC2023「オンライントーク」
※(当初予定)名古屋:港まちポットラックビル

寺内曜子さん(AAIC2023審査員)、安野太郎さん(AAIC2017入賞作家／高橋源一郎賞)の応募者へのメッセージを収録。寺内曜子さんとAAIC企画委員の安藤泰彦さん・河西栄二さんによる対談を実施。



2022年1月30日(日) AAIC2023「オンライントーク」
※(当初予定)東京:3331ArtsChiyoda

入江経一さん・北村明子さん(AAIC2023審査員)、大貫仁美さん(AAIC2020入選作家)の応募者へのメッセージを収録。入江経一さん・北村明子さんとAAIC企画委員の日比野克彦さん・三輪真弘さんによる対談を実施。



2022年2月12日(土) AAIC2023「オンライントーク」
※(当初予定)福岡:福岡アジア美術館

四方幸子さん(AAIC2023審査員)、北川純さん(AAIC2020入賞作家／藤森照信賞)の応募者へのメッセージを収録。四方幸子さんとAAIC企画委員の河西栄二さん・衣笠文彦さんによる対談を実施。



2022年2月20日(土) AAIC2023「オンライントーク」
※(当初予定)京都:FabCafeKyoto

山極壽一さん(AAIC2023審査員)、橋本哲史さん(AAIC2020入選作家)の応募者へのメッセージを収録。山極壽一さんとAAIC企画委員の桑原鑛司さん・衣笠文彦さんによる対談を実施。



公募説明トークイベント「CROSS TALK」

in 金沢

日 時：2022年3月12日(土) AAIC2023「CROSS TALK in 金沢」
会 場：金沢アートグミ(金沢市) 参加者：約30名

第1部 寺内曜子(AAIC2023審査員)、青木正弘・佐藤昌宏(AAIC企画委員)
第2部 山本麻璃絵+姫野亜也(AAIC2020大賞作家)、青木正弘・佐藤昌宏(AAIC企画委員)

寺内曜子さんからはご自身の作品を画像で紹介しつつ作品制作に対する姿勢やAAICを審査する想いを、山本麻璃絵さん・姫野亜也さんからは、お二人の作品を紹介いただきながら、AAIC2020での応募の想いやその経験による様々なお話をいただいた。



in 岐阜

日 時：2022年3月19日(土) AAIC2023「CROSS TALK in 岐阜」
会 場：岐阜県美術館 参加者：約50名

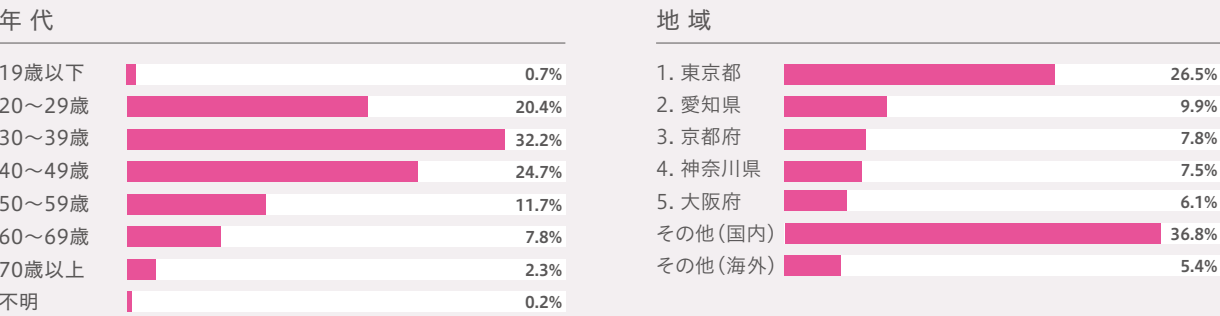
第1部 四方幸子(AAIC2023審査員)、桑原鑛司・安藤泰彦・三輪眞弘(AAIC企画委員)
第2部 笠原巧(AAIC2020入選作家)、桑原鑛司・安藤泰彦・三輪眞弘(AAIC企画委員)

四方幸子さんからは、キュレーターとしての考え方、アートの重要性などの想いを、桑原委員長からはAAICの特徴や魅力を紹介いただいた。笠原巧さんからは、応募のきっかけや初めてのアート作品制作への想い、制作支援などのAAICの魅力についてお話いただいた。



応募状況

海外を含む各地から574件の応募。10代から80代までの幅広い年齢層からの応募の中、30代から40代が全体の約57%を占めた。国内居住地においては東京が最も多く26.5%、次いで愛知県の9.9%。海外からの応募は全体の5.4%を占めた。



一次審査

日 時：2022年9月25日(日)
会 場：JRゲートタワー カンファレンス(名古屋市)

様々な分野で活躍される審査員が審査会場に集結(1名はオンライン参加)。会場には応募作品574点全ての企画書が並べられ、必要に応じて任意提出資料の映像・音声・マケットも確認できる会場にて審査が行われた。一次審査では、応募者が特定できる情報(作家名・略歴等)を伏せて実施。審査の結果、14組の入選作品を選定した。



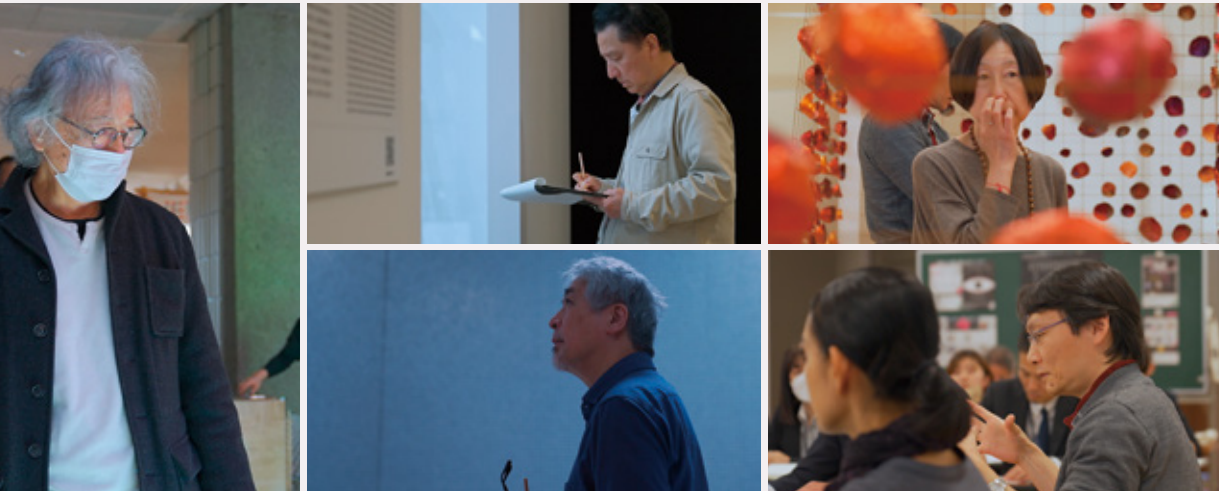


二次審査

日 時：2023年4月9日(日)
会 場：岐阜県美術館

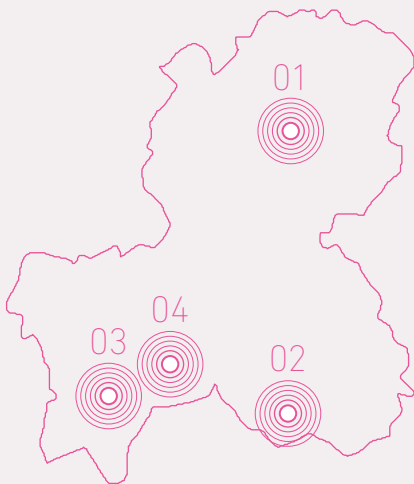
7名の審査員が一堂に会し、岐阜県美術館に展示された14作品を1日かけて鑑賞、討議した。優れた作品が多く、大賞選考にあたっては白熱した議論が終始繰り広げられたが、最終的には審査員全員が納得する形で大賞が選出される結果となった。





■ 関連プログラム[プレイベント]

会期前の展覧会PRの一環として、岐阜県内各所でAAIC2020・2023入選作家によるワークショップを実施するとともに、AAIC2023審査員・山極壽一さんによる講演会を実施。



01

AAIC2020大賞作家によるワークショップ
石から見いだす自分だけのカタチ
山本麻璃絵+姫野亜也

日 時：2022年11月27日(日) 13:30～15:00
会 場：飛騨高山まちの博物館(高山市)
参加者：大理石コース10名、キラ石コース10名(事前申込制)

大理石を割って磨いてカタチを見出す作家の道具を使って彫刻を体験する「大理石コース」と、キラキラな石の価値を見出して、その石のための場を作る、水晶石と木材を使ったオブジェを作る「キラ石コース」。子どもも大人も彫刻の世界を楽しんだ。



参加者コメント

「普段なかなか経験できない楽しいワークショップだった。何気ないものが作品になることを学べた。」
「日常で大理石を加工することができないため、自身で加工したりすることができ楽しかった。」

02

AAIC2023入選作家によるワークショップ
空気と光で体感！
巨大気球を浮かせてみよう。
奥中章人

日 時：2023年1月15日(日) 13:30～15:30
会 場：セラミックパークMINO(多治見市)
参加者：37名(事前申込制)

身の回りにある空気をモチーフにした目には見えない造形あそび。半透明のポリ袋で空気を捕まえたり、捕まえて袋を縛ったら叩いて音を聞いてみたり、ボールのように飛ばすとゆっくり落ちてきたり。最後には、みんなで力を合わせて巨大な気球に温かい空気を入れて浮かばせた。



参加者コメント

「にこやかで優しい先生で、空気の恩恵について、空気抵抗や空気の振動について大変分かりやすく教えてくださった。」
「科学も知れて身体で楽しめて、子どもも久しぶりに心から楽しかったと言ってキラキラしてました！」

03

AAIC2023入選作家によるワークショップ
おもしろいうごきと景色を組み合わせ、ショートムービーをつくろう
「カメラでうごき採集！」
身体企画ユニット ヨハク

日 時：2023年2月5日(日) 13:00～16:00
会 場：大垣市サイトピアセンター(大垣市)
参加者：12名(事前申込制)

カメラを通してまわりを見たとき、普段の風景やうごきでも少し違って見えるはず。実際に撮ってみて、見え方を確認しながら、自分だけのうごきを採集。みんなで試行錯誤しながら、スマホなど手軽な機材を使って、個々の映像作品をつくりあげた。



参加者コメント

「おもしろかった。あんな風に動画をとって、編集したのが初めてで楽しかったです!!」
「子どもの思いつきを先生に見事に作品にさせていただけてすごいと思いましたうれしかったです。」

04

AAIC2023審査員
山極壽一 講演会
「アートは人類に何をもたらしたか」

日 時：2023年3月5日(日) 13:00～14:00
会 場：岐阜県美術館 講堂
来場者：126名(事前申込制)

人類学・霊長類学の専門家であり総合地球環境学研究所所長の山極壽一さん(AAIC2023審査員)により、人類の起源・進化から今日に至るまでの切り口でのアート論を講演いただいた。岐阜県内に留まらず愛知県・三重県から、幅広い年齢層の方々に来場いただいた。



参加者コメント

「人間の社会性と芸術を通じての発達、なるほどと思いながら視点をメタパースの危うさまで広げていただいたのが楽しかったです。」
「人類の進化と芸術の関りを知る事が出来て良かったです。」
「これからの社会について若者たちに考えてほしい。せひ多くの人に聞いてほしい内容でした。」
「過去・現在・未来へと時間とアートとの関連が良く分かった。」

AAICの特徴

Art Award IN THE CUBE(以下、AAIC)は、想像力溢れる新たな才能の発掘と育成を目的とした企画公募展。一次審査を通過した企画は、アイデアや試作の段階からは一歩踏み込んだ作品制作と完成度の高さが問われる。

AAICでは、キューブのスケール感や構造、美術館での展示や法令に伴う制約等、プランの実現化における様々な面を支援。また、各作家への作品制作支援に留まらず、芸術祭そのものの開催における企業・団体からの協賛を積極的に募っている。

Art Award IN THE CUBE

3年に1度の展覧会

- ・ジャンルを問わない企画公募展
- ・開催ごとで決まるテーマ
- ・キューブ空間でのアート作品

作家支援

制作アドバイザー

AAICサポーターズ

企業・団体協賛

作家支援

一次審査で選定された14組の作家は、企画書で訴求したアイデアや試作を深掘りし、テーマ「[リアル]のゆくえ」を表した作品制作を行う。4.8×4.8×3.6mのキューブ空間という条件の中でのアイデアの実現化、構造や展示するうえでの制約等、制作アドバイザーを中心に様々な面から作家の作品制作を支援した。

1. 入選者には賞金(50万円)を授与
2. 制作アドバイザー(衣笠文彦AAIC企画委員)による制作支援及び会期中のメンテナンス支援
3. 作品制作・展示に関わる技術的な相談事への支援
4. 出品者の作品制作・展示に関わる外部協力者(岐阜県内企業・団体など)の紹介等
5. 岐阜県美術館での作品設置に関わるAAICサポーターズ(ボランティア)の制作補助



AAICサポーターズ(ボランティア)活動

作品制作や会場運営などをサポートするサポーターズ(ボランティア)を募集し、県内外から計67名(延べ444回)の方に参加いただいた。作品制作補助、各作品の案内や看視補助、ワークショップの運営補助、作品撤収作業補助など、連日活動を行った。

サポーターズの声

- 「制作の裏側を見れたり作家の方とお話したり、普段なかなかできない経験ができた。」
- 「今までにない体験だった。作家さんたちと話せてとても楽しかった。」
- 「来場者やサポーターズと作品について感想や見どころを共有できたことが楽しかった。」



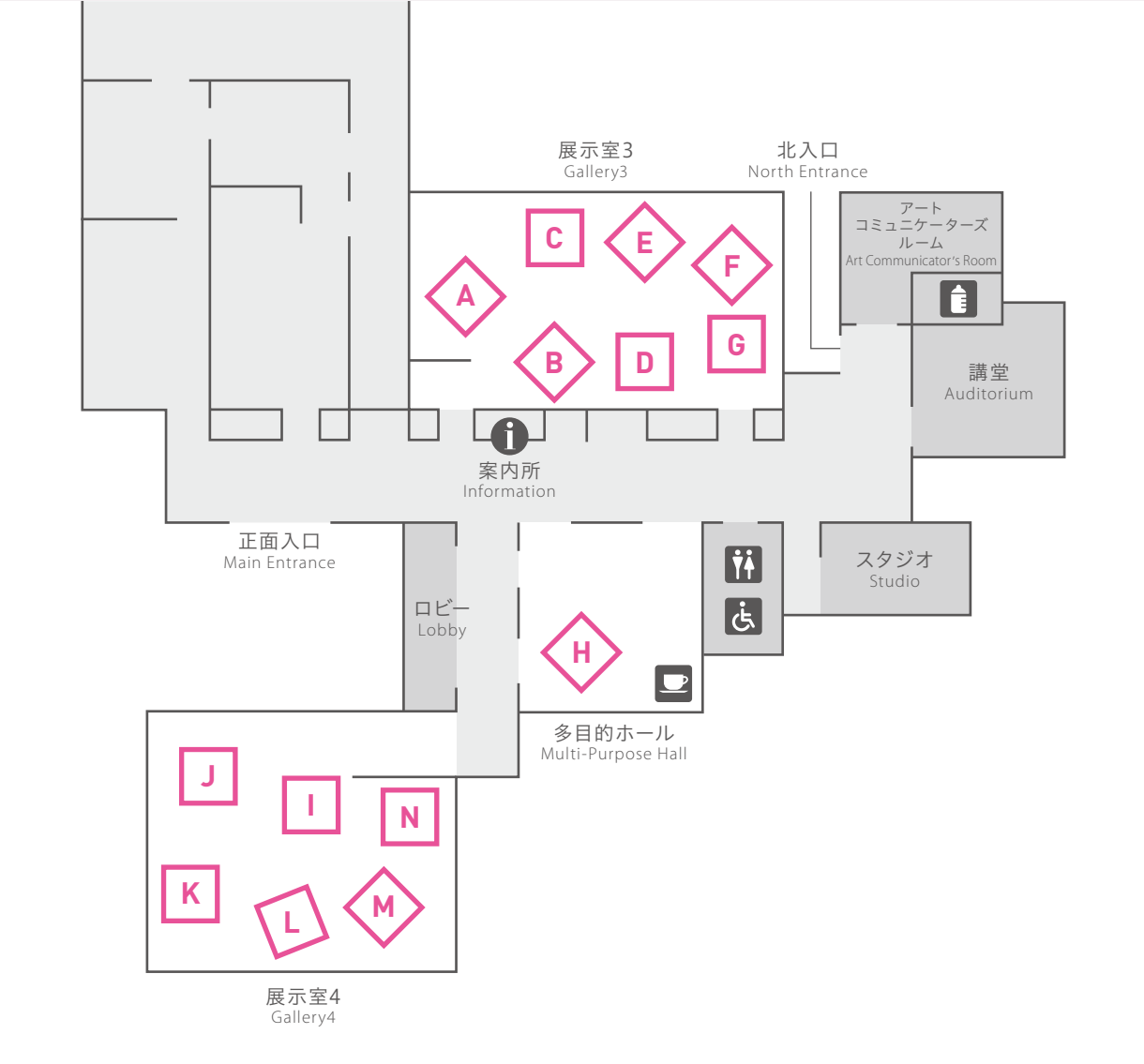
企業・団体による協賛・助成

AAICは地元企業・団体の協賛を得て開催しており、AAIC2023では、前回は大きく上回る15もの企業・団体のご協賛と1件の助成を得て開催した。



展覧会概要

会 期：2023年4月22日(土)–6月18日(日) (開館日：50日間)
会 場：岐阜県美術館
来場者数：61,763名



- A** 千田泰広《Aftereal 6》
CHIDA Yasuhiro《Aftereal 6》

B 千葉麻十佳《Melting Hida Mountains》
CHIBA Madoka《Melting Hida Mountains》

C 岡ともみ《サカサゴト》
OKA Tomomi《Sakasago-to-Inverted Ordinary Life-》

D INAGAKI MOMO《JK in the street.(普通的女子高生)》
イナガキ モモ《JK in the street. (tadano joshikosei)》

E 山本雄教《One room》
YAMAMOTO Yukyo《One room》

F 柴田美智子《触れるもの、絶対に触れないもの》
SHIBATA Michiko《Things that can be touched, things that can never be touched》

G GengoRaw(石橋友也+新倉健人)《パベルのランドスケープ》
GengoRaw (ISHIBASHI Tomoya+NIIKURA Kento)《Landscapes of Babel》
- H** 奥中章人《INTER-WORLD/SPHERE: Over The Cube》
OKUNAKA Akihito《INTER-WORLD/SPHERE: Over The Cube》

I florian gadenne + miki okubo《アンブレラ種》
フロリアン・ガデン+ミキ・オオクボ《Umbrella species》

J 大西康明《石と柵 岐阜》
ONISHI Yasuaki《Stone and Fence Gifu》

K 身体企画ユニット ヨハク
《スクランブル交差空間 — 干渉の調和 —》
YOHAKU《Scramble Crossing Space -Harmony of Non-Interference-》

L 北川純《ネットショッピング》
KITAGAWA Jun《Online shopping》

M 古屋崇久《橋の形》
FURUYA Takahisa《Shapes of bridges》

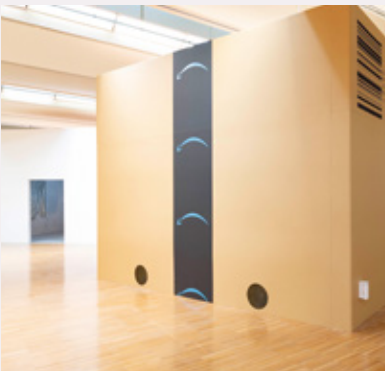
N 小孫哲太郎《NAGAMERU》
KOMAGO Tetsutaro《NAGAMERU》

表彰式／開場式(テープカット)

日 時：2023年4月22日(土)13:30～14:30
会 場：岐阜県美術館 多目的ホール・展示室3入口(特設会場)

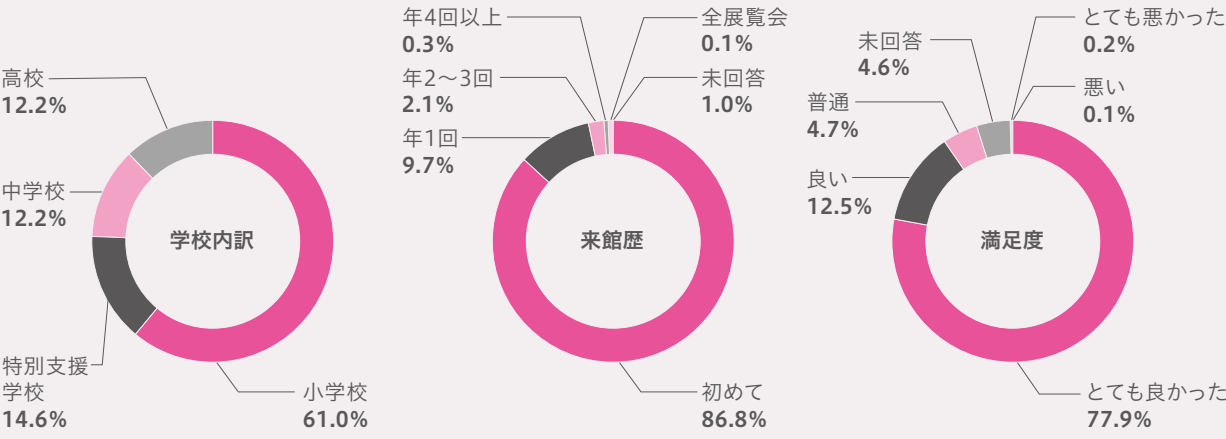
会期の初日には、審査員7名のご紹介に続き大賞及び審査員賞の表彰を、その後、展示室3入口前でテープカットを行い、華々しくAAIC2023の開幕を迎えた。





学校団体鑑賞

「新たな形のアートの鑑賞機会の提供」の一環として、県内小・中・高・特別支援学校(計41校)の児童・生徒(計1,676名)が観覧する「学校団体鑑賞」を実施。美術館での鑑賞マナーを学ぶとともに、表現力や創造力を高めることを目的とした対話型鑑賞に重点をおいた。



自由記述欄抜粋

「美術館には初めて来たが、家族にも見てもらいたいと思った。」
「どの作品にも僕にはとてもアイデアが思いつかなかったし、個性的なものも多かったので、鑑賞がこんなにも楽しいものなんだと思った。」
「いろいろな芸術先品を見られて楽しかったし不思議だった。また、作品を作った方は、どんな気持ちで作られたかなと考えることは、とても楽しいことだと気づき、芸術に興味がわいてきた。」



関連プログラム[会期中イベント]

4月22日(土)から6月18日(日)の会期中には多彩なイベントを開催し、展覧会をPR。

01

AAIC2023入選作家が各キューブに“在廊”して作品の見どころを紹介。
Artist IN THE CUBE

日 時：2023年4月22日(土) 15:30～17:30
会 場：岐阜県美術館 AAIC2023展示スペース
参加者：約50名(事前申込制)

表彰式・開場式後に各作家がキューブに在廊し、鑑賞者へ自身の作品の見どころ等々を紹介。事前申込みの方だけにとどまらず、多くの来場者の方々と一緒に作品を楽しんでいた。



02

それぞれの世界観で見る“リアル”のゆくえ”。
AAIC2023審査員によるクロストーク
“リアル”のゆくえ”

日 時：2023年4月30日(日) 14:00～15:30
会 場：岐阜県美術館 講堂
参加者：121名(事前申込制)

AAIC2023審査員の岩崎秀雄さん・北村明子さん・森村泰昌さんの3名が、「AAICの印象(審査員の依頼を受けたときの印象)」 「審査の所感」「印象深かった作品(どこを評価したか・しなかったか)」「テーマとキューブに対する審査員としての捉え方」「AAICに期待すること」等々を、中日新聞文化芸能部デスクの中村陽子さんを聞き手に、多彩な視点でお話しいただいた。



参加者コメント

「審査員の方々の話を聞く貴重な機会でした」
「様々なバックボーンを持つ審査員がいることで、話がおもしろかった」
「AAICの審査方法、賞を選ぶ方法など、ここに至った経緯を聞くことができた」
「ARTに関するリアルの意味について考えさせられた」
「全然タイプの違う視点からの御三方で、本当に面白かったです」



03

AAIC企画委員が14のキューブを巡りながら、AAIC2023の見どころや楽しみ方をご案内。
AAIC企画委員によるキューブツアー

日 時：2023年5月19日(金)・6月16日(金)
各日18:00～19:00
会 場：岐阜県美術館 AAIC2023展示スペース
参加者：各日約20名(事前申込制/当日参加有)

会期中の夜間開館日において、AAIC企画委員でもありAAIC2023制作アドバイザーでもある衣笠文彦さんが、AAIC立ち上げの想いやAAIC2023の作品制作支援での話を交えながらAAIC2023の見どころや楽しみ方を案内した。



関連プログラム[会期中ワークショップ]

01

AAIC2023入選作家によるワークショップ
目隠し食育陶芸体験
小孫哲太郎

日 時：2023年4月23日(日) 13:00～16:00
会 場：岐阜県美術館 アトリエ
参加者：24名(事前申込制)

目隠しをして、普段とは違う感覚で土をさわって自分のオリジナル器を制作。食べることや器をつかうことに新しい発見を感じていただいた。後日、焼き上げた陶磁器をお渡した。



参加者コメント

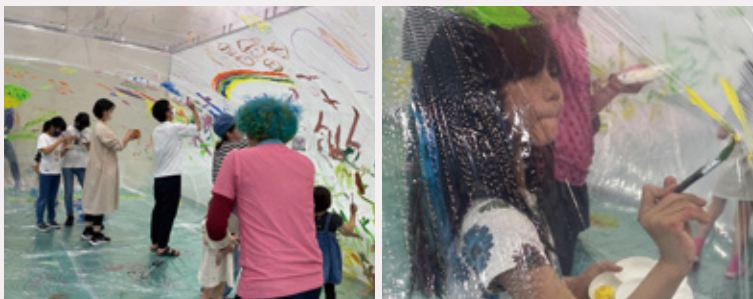
「目隠しをして作ってみました。
不思議体験！」
「作家さんの人柄が伝わって、一緒に
時間を過ごせてとても楽しかったです。」

02

AAIC2023入選作家によるワークショップ
超巨大！透明な風船にお絵描き！
奥中章人

日 時：2023年5月5日(金・祝) 13:30～15:30
会 場：岐阜県美術館 アトリエ
参加者：29名(事前申込制)

幼児絵具を使って空気に絵を描いてみる。巨大な透明風船の中に入って、参加者の思いつきや発想を全員と共有しながら、様々な世界観を描いた。参加者の多くは親子で楽しんでいただいた。持ち帰りたい部分をキャンパスパネルに貼ってお渡した。



参加者コメント

「何でも自由にぶかぶか浮いている
空間の中でやるのはおもしろかった。」
「大人も子どもとても楽しく夢中にな
れる活動でした。」

03

AAIC2023入選作家によるワークショップ
ダンボール箱を作ってみる。
北川純

日 時：2023年5月14日(日) 13:30～15:30
会 場：岐阜県美術館 アトリエ
参加者：9名(事前申込制)

大きなダンボール板からオリジナルダンボール箱を作る。大きさは自由。基本的な構造を知ってもらい、各々がいろんなサイズのダンボールを制作。出来上がったダンボールには、各々が自由に絵や文字を描いて自分だけのダンボールを制作した。



参加者コメント

「材料など十分に整えてもらったし
スタッフの方も親切に教えていただき
ました。」
「いろんな絵が描けたり、たくさんの人
に助けられるのがいいなと思いました。」

04

AAIC2023入選作家によるワークショップ
大きな／小さな生き物?!
視点を変えればおもしろい
florian gadenne + miki okubo

日 時：2023年5月20日(土) 13:00～16:00
会 場：岐阜県美術館 アトリエ
参加者：11名(事前申込制)

岐阜県内の自然や都市の風景の中に、尺度を変えて大きく／小さくなった動植物を描いてみる。動植物は、各々が好きな動植物。普通ではありえない世界観を自由に描いた後は、各々の世界観を参加者みんなで話した。



参加者コメント

「難しかったですが、新鮮な感覚で
描くことができて楽しかったです。」
「色のぬり方を丁寧に教えていただい
たので分かりやすかった。」

05

AAIC2023入選作家によるワークショップ
橋を渡ろう！
古屋崇久

日 時：2023年5月28日(日) 13:30～15:30
会 場：岐阜県美術館 庭園
参加者：16名(事前申込制)

岐阜県の美しい川の如く岐阜県美術館の庭園に流れる小川。岐阜の木材を麻紐で組み合わせて皆で橋を作り、出来上がった橋を順番に渡ってみる。水に濡れながらの作業を気にすることなく、保護者も含めた参加者全員笑顔があふれた。



参加者コメント

「協力して作品を作ることが楽しかっ
た。」
「本当に橋をつくり、わたれるのが
良かった。」

06

AAIC2023入選作家によるワークショップ
太陽がなくなったら
千葉麻十佳

日 時：2023年6月18日(日) 13:30～15:30
会 場：岐阜県美術館 ACルーム
参加者：9名(事前申込制)

もし太陽が今この瞬間になくなったら、最後の光が届くまでの“8分19秒”のまだ明るい間に何をするか？実際に“8分19秒”を各自で何度も体感してみて、自分なら何をするかを語り合う。最後は自身への手紙を書き上げた。



参加者コメント

「短い時間でしたが楽しい時間が
過ごせました。」
「普段は考えてみない事を、皆で考える
事ができて楽しかった。」